

いと思ひます

子供が無生物とか、動物などを自分と同じ様な心
を持って居ると思つて、夫等を自分の仲間と見る事
は、大變趣味のある問題でございまして、之に依
て、小さな道徳上の感情を興へることが、澤山出
來ますのに、考へないで居ますと、夫が出来ない
のみならず、反つて反對の情を煽動する様な場合
が澤山あるのは歎かほしい事と思ひます

家庭閑話

その子

▲女の子三人ある家には盜賊入らず、日々三通以
上の郵便ある家は、どうにか經濟の融通つく道あ
りとは古人より傳はれる諺にこそ。

▲去りながら、誰か女の子を不生産的と敢て言ふ。

さらば男の手にて何程の生産をなし得べしや、
誰か一家の妻を勢力なしと敢て言ふ、并びが岡の
法師は言はずや「されば女のかみすぢをよれる綱
には大象もよくつながると。

▲家庭の治まらぬとて、もはら男をのみ咎むべし
やは、さるは主婦の意氣地なきことをぞあらはず
める、大象をもつなきとむべき女の力もて、何す
れぞ一人の男を得つなござる事やある。温順なる
妻は夫の命令者なりと申す事の侍らずや An obedi-
ent wife commands her husband.

▲戀は神聖なりとは、何日如何なるすき者の言ひ
出でたりけん、戀こそ曲物、嫉妬の姉妹、萬の罪
の母なるを、さてもく、何れは玉の盃そこなき
にも似たるかなど口すさみけんえせ詩人原の晝寢
の言の葉にもやあらん。

▲真理は古今東西變ることなし。牝雞の晨をつぐ
るは家の不祥とは、女をのみ尊ぶと傳ふめる西の
國にもある諺と聞く It is a sorry house in which
the cock is silent and the hen crows.

▲單獨の生活は罪の伴ふ自由なり Single life is
guilty freedom と申す事の侍り。生涯妻を迎へ
ず、一生夫取らずで過ごし行くこと、すことに一身
上自由には相違なきも、ざりとは、宗教上の勤
に靈魂を忘れ、畢生の事業に身を捧ぐる様の事な
くて、平凡の人ならんには、單獨の自由にて然か
も精神の修養、品性の圓滿を期すること、困難な
らずとは申されじ。

▲善い夫は善い妻を作る Good husband makes a
good wife とは、げに理ある言葉なりけり。妻あ
しとしてうちかこつ夫は、自ら價値なきことを示す

ものにあらずや He who does not honour his wife
dishonours himself.

トマトー羊羹の髓らへ方

瀧の川の康樂園へ行た所が、折柄トマトーが澤山
できて居た。いろ／＼のトマトー料理をして見た
末トマトー羊羹を髓らへたといつて、夫人の話さ
れた仕方を覚えて、歸つてやつて見ました其拵ら
へ方は先づトマトーの適宜の大きさのもの五六個皮
むきて煮て、其汁をすいのうにてこし、角天一本
に煮汁二合割合に、砂糖好みに仕せて交ぜ煮つめ
た後に重箱に入れてさまして置きますとまことに
色の美しい、淡泊した羊羹が出来上ります。